

科目名	日本経済史	科目分類	■専門科目群 □総合科目群		
			経済学科	□必修 ■選択	
			学科	□必修 □選択	
英文表記	History of Japanese Economy	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年		
		開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中		
ふりがな	さかもと こういち	実務家教員担当科目		修得単位	2単位
担当者名	坂元 浩一	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	日本経済の長期間の歴史を学ぶ				
到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. 日本経済の全体と主な期間の経済事情を十分に理解できるようになります。 2. 複雑な経済の歴史を、理論と政策の知識を基に、要点を理解できます。 3. 現在の日本経済の歴史的背景を正しく理解できるようになります。				
授業概要	本授業は隔年開講です。来年度は西洋経済史を開講しますので、併せて履修してください。 経済学は大きく次の3つに分かれます。すなわち、理論、歴史、政策。本授業は歴史を扱います。歴史を正しく理解するためには理論と政策の理解が必要ですので、本授業では理論と政策の基本の復習も行いながら、日本経済の歴史を説明します。 本授業では、過去の経済の動向の説明を中心とするが、現代の経済課題と関係づけて説明します。加えて、担当教員が国際経済取引、主な外国経済に関する調査・研究に長期間関わったことから、日本経済の理解に国際的視点も説明します。当然ながら、経済外の状況の変化（政治、人口など）もレビューして進めます。				
授業計画					
第1回	イントロダクション（授業の進め方、日本経済の最近の状況と歴史の関係）				
第2回	日本経済の現状と歴史の関係				
第3回	江戸時代の日本経済				
第4回	明治維新				
第5回	占領・復興期				
第6回	高度経済成長				
第7回	日本経済の国際化				
第8回	バブルの崩壊と長期経済停滞				
第9回	日本経済の構造改革				
第10回	世界経済の変化と日本経済の対応				
第11回	アベノミクスと経済成長戦略				
第12回	事例研究： 金融危機				
第13回	事例研究： 構造改革				
第14回	日本経済の経験と発展途上国				
第15回	日本経済の現状と歴史の関係、将来の方向性				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	1. 授業で説明する情報や課題に十分にに取り組んでください。（1時間程度） 2. 日頃から日本経済新聞やその他の経済情報に目を通すようにしてください。（0.5時間程度）				
履修条件 受講のルール	なし				
テキスト	なし				

参考文献・資料	八代尚宏『日本経済論・入門』第3版、有斐閣、2021年。 速水融、宮本又郎（編）『日本経済史1 経済社会の成立 17－18世紀』岩波書店、1989年。 新保博、斎藤修（編）『日本経済史2 近代成長の胎動』岩波書店、1989年。 大川一司、小浜裕久『経済発展論 日本の経験と発展途上国』東洋経済新報社、1993年。 中野真志、島村高嘉『読本シリーズ 金融読本』第32版、有斐閣、2023年。 坂元浩一『教養系の国際経済論―総理解から次の一歩まで―』（電子書籍）大学教育出版、2012年。 坂元浩一『世界金融危機―歴史とフィールドからの検証―』大学教育出版、2010年。
成績評価の方法	【レポート・小テスト(50%)、定期試験(50%)】 上記評価項目を基にして総合的に判断します。授業の理解および予習・復習が充分であることを確認するために授業中に行うミニ・テストも評価に含めます。 ・出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日、金曜日 14時～15時
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	経済学はどの分野も、理論、歴史、政策の三本立てです。過去（歴史）を知ることは、今後の経済の考え方（理論）と政策を占うために必要です。 経済学そのもの（理論と政策の基本）の理解を深めることも可能です。